

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570104065		
法人名	医療法人愛広会		
事業所名	グループホームおやま		
所在地	新潟県新潟市北区木崎754番地		
自己評価作成日	令和5年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和6年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成12年4月に開設されました。グループホームおやまは2階建てとなっており、1階3部屋、2階部屋のワンユニットとなっております。2階の入居者様は日常生活で階段昇降され自然なりハビリティとなり下肢筋力の維持に繋がっております。
居心地がよく本音で話せる関係作りを心掛けています。
日々の生活の中で各自が役割をもち、レクリエーションや行事に参加して頂き、グループホームおやまの一員として元気にかつ穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。
温かみを感じ安心して暮らして頂けるグループホームおやまを見て頂ければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に隣接して同じ法人の病院、老人保健施設、訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護事業所等があり、医療や災害対応、研修など様々な面で日常的に連携し、サービスの質や本人、家族の安心につながっている。

開設から間もなく24年を迎えるが、経験年数の長い職員が多く、職員間のコミュニケーションがよく取れており、会議以外の日常業務の場でも意見を出し合っている。また、身体拘束や虐待に関する委員会の場や研修、職員向けのアンケートなどで、自身や他職員の日々の支援の振り返りを行っている。

事業所理念にあるように、家庭的な雰囲気を大切にし、利用者に食事の準備や後片付け、共用空間の清掃などを手伝ってもらいやりがいにつながったり、利用者同士がそれぞれの居室を訪ねて談笑するなど生活を楽しめるよう配慮している。

家族との情報共有に努め、広報紙の他に毎月、担当職員が個々の利用者の様子を手紙にして送っている。介護計画作成の際は職員が意見を出し合い、サービス担当者会議には日程を調整して本人、家族にも参加してもらって一緒に計画を作り上げている。また毎月、計画作成担当者がモニタリングを行い、時間を設けて一人ひとりの利用者へ声をかけ意向などを丁寧に聞いている。その他、法人として毎年、家族向けアンケートを実施するなど、本人、家族の意見を大切にし、思いに寄り添った支援を実践している事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届く場所に掲示しており、いつでも確認し意識するよう心掛け日々の業務にあたっている。 広報にも理念を掲げ発信している。	職員で話し合っ作られた事業所理念は、利用者や来訪者、職員の目に留まるように玄関、事務所に掲示されており、年に一度、理念が実践できているか職員で話し合い確認している。異動職員等に対しては事前に理念について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草刈りや防災訓練等あったが、新型コロナウイルス感染の影響により困難な状況であった。	地域との交流を大切にし、コロナ禍以前は防災訓練や草刈り、クリスマス会など地域の行事に参加したり、ピアノ弾き語りのボランティアなどの受け入れも行ってきた。コロナが5類に移行し利用者との近くのスーパーなどへの買い物も再開するなど地域との交流を再び進めていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のため出来ていない。問い合わせや見学の際には支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、会議の開催は出来ていないが、2ヶ月に1度グループホームでの日々の近況報告、行事報告又事故報告を文面で伝えている。	運営推進会議は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行われている。メンバーは利用者代表、家族代表、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員、他法人グループホーム管理者等である。コロナ禍以降、書面開催とし、対面での会議は再開できていないが、利用者の状況やヒヤリハット、事故報告、行事報告などはイメージしやすく写真を使いながら報告している。議事録は家族にも郵送し、意見をもらいやすいよう返信用の封筒を同封するなど工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の研修に参加したり情報交換を行っている。運営推進会議には地域の包括支援センターの職員にも参加して頂いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーになっており、事業所の状況について理解してもらっている。市主催の研修に参加したり、区役所の担当課に相談している他、利用者生活保護受給者いることから保護課職員とは緊密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束を行ってはならない事を認識している。3ヵ月に1度勉強会を実施し、話や考える場を設けている。玄関の鍵は7時～17時まででは開放されている。	身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催し、内容について職員に報告、周知している。また、職員に無記名でアンケートを実施し、自分自身や他の職員の日々の支援について振り返りを行っている。事業所独自のマニュアルが作成され、スピーチロックについても注意を払っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い共有している。 虐待はあってはならないこと、通報の義務がある事を理解している。	今年度、身体拘束適正化委員会とは別のメンバーで虐待防止に関する委員会を立ち上げ、年2回の研修を行い、グレーゾーンについても検討した。職員のストレスについては職員間で話しやすい雰囲気を作り声をかけ合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適正な支援が出来るよう併設施設の相談員と連絡をとり、学ぶ機会を持ち活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、家族の立場になって十分な説明を行い、不安や不明な点がないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人での年1回アンケートの実施、サービス担当者会議、面会、電話時等に要望等はないか確認を行っている。職員に気軽に話せる雰囲気作りを行っている。	家族が話しやすい雰囲気作りに努め、面会時や電話、サービス担当者会議など様々な機会を通じて意見、要望を聞くよう心がけている。また、法人で毎年1回、家族向けのアンケートを実施し運営等に活かしている。利用者については日々の会話や毎月1回、計画作成担当者が一人ひとりの思い、要望を聞く時間を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の話合いやスタッフ会議、その他個別でも話を聞く機会を設けている。法人としても人材活性を用いて、職員の要望を発信する事ができるようになっている。	スタッフ会議は3か月に一度の開催であるが、職員間のコミュニケーションがよく取れており、送りノートや日々の業務の中での話合いにより職員の意見が利用者支援や事業所運営に活かされている。また年2回、WEBシステムで法人上層部に設備や異動希望など様々な意見を伝える機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課があり、個々の努力や実績、勤務状況等を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的開催される法人内の研修や外部研修に参加できるよう調整を行っている。研修後は内部研修をし、周知や知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所会議等に出席し情報交換を行っている。 新型コロナウイルス感染症予防のため外部との交流はあまりできていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族様に見学にきて頂き、雰囲気を知ってもらうと共に不安や要望を受け止めながら、安心して頂けるよう心掛けている。入居後も不安なく過ごせるようコミュニケーションを多くとるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの経緯、不安、困っている事を聞き安心できるよう心掛けている。職員で情報共有をし、なんでも言える関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際話を聞き、今必要とされているサービス支援を見極め適切な対応に努めている。また必要に応じたサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護、支援するのではなく、本人のできること、得意なことをして頂いている。職員が知らない事を教えて頂き、一緒に食事や家事、活動等を行ったり、ゆっくりと会話を楽しんだり共に過ごす時間、関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会やサービス担当者会議、毎月のお手紙 等で日常の様子を伝え情報の共有を行って いる。ご家族様の状況を理解し協力しあい ながら支援している。	運営推進会議の議事録を毎回郵送したり、定期的 に発行される広報紙の他に毎月、居室担当職員 が利用者の様子を手紙にして送るなど、家族との 情報共有に努めている。また、外出、外泊や協力 病院以外の通院の付き添いを家族に依頼したり、 サービス担当者会議に参加してもらっている。介 護計画にも家族の役割を盛り込むなど、本人を共 に支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方々が気軽に面会にきて頂 けるよう環境に努めている。新型コロナウイルス 感染予防のため実施できていないとこ ろもある。	馴染みの人や場所について、入居時に聞くほか、 入居後も本人の話などから情報を得て職員で共有 している。家族や親戚等の面会を歓迎し、家族と の外出、外泊の支援に努めている他、事業所でも ドライブの機会を設けて利用者の馴染みの場所に 出かけるなど、これまでの関係を大切に支援して いる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	1人ひとりの関係性を把握し、定期的に席替えを 行い入居者同士が話しやすい環境を作ってい る。食事等孤立することがないように、職員が仲介 役となり良い関係が築けるよう支援している。レク リエーションの場を設け、関わり合う機会を設けて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族様との関 わりを大切にしている。必要時に応じて対応 するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の会話やサービス担当者会議等で意 向確認を行っている。本人の希望にできる だけ添えるよう支援している。確認の困難な 方でも関わりを持ち寄り添うよう努めている。	入居時に意向を聞いたり、介護計画のアセスメント として毎月、計画作成担当者が利用者意向の確 認を行う時間を設けている。その他、サービス担当 者会議や日々の会話や行動からも思いや希望の 把握に努め、本人の意向に沿った支援が提供でき るよう心がけている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	入居前の生活歴、状況や環境をご家族様 や多方面からも情報収集している。入居後 も日々の関わりの中で把握に努めている。	入居時に本人、家族やそれまで利用していた事業 所等関係機関から情報を得るほか、入居後に得ら れた情報についても追記し、職員間で共有し日々 の支援に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現況を見極め、把握し、活動や作業を提供している。日々の状況、心身の特変等を記録に残し、職員間での情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の前に全職員の意見を記録にまとめ、本人、ご家族様の意向確認を一人ひとりにあった介護計画を作成している。	介護計画は職員が意見を出し合い、担当職員と計画作成担当で話し合い、本人、家族の意向を聞きながら原案を作成している。その後、本人、家族を含めたサービス担当者会議を開催、協議して作成している。計画作成担当者は毎月、本人に聞き取りを行いモニタリングを実施している。6か月、または必要に応じて計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態を細かく記録に残し、業務日誌や申し送りノート、会議で情報共有し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に変化があれば早急に話し合い、見直しを行い臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の音楽ボランティアが隔週で来て下さったり、地域の行事に参加させて頂いていましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため出来ていない。 少しづつだが外出の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人やご家族様の意向を確認し、可能であれば併設の協力病院に職員の付き添いにて受診している。協力病院以外の受診はご家族様のご協力を得てお願いしている。	かかりつけ医は本人、家族の意向によって決められる。現在は全員、隣接する同法人の協力病院にかかりつけ医を移し、職員の付き添いで受診している。併設の協力病院にない診療科目については家族の付き添いで別の医療機関に受診している。本人の状況、受診結果については家族、事業所、医療機関で情報共有を行っている。また、週1回、訪問看護を利用し、バイタルチェックや相談に乗ってもらうなど適切な医療が受けられるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度併設施設の訪問看護に来て頂いている。体調の変化等があった場合も24時間相談することができ、アドバイスや指示をうけることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族様や病院関係者と連絡を密にとり、情報共有している。また直接状態確認を行い本人、ご家族様の意向も確認し早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を書面にて説明を行っている。本人やご家族様の意向確認し出来る限りの支援を行えるよう取り組んでいる。	入居時に事業所の「重度化した場合における対応に係る指針」やさらに具体的に事業所で対応できないこと等の説明を行っている。状態の変化があった場合はその都度、今後の対応等について家族と話し合い、必要に応じて住み替えについての相談も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、訪問看護に来て頂いたり、隣接する病院に連絡し受診している。マニュアルに沿い、症状別や連絡体制等が整備されている。	急変や事故発生時の対応マニュアルが整備され、緊急時の対応についてフローチャートで事務所に掲示している。コロナ禍前は実際にAEDを使用、訓練していたが、現在はDVDを見ながら研修を行っている。同法人の協力病院や訪問看護ステーションが隣接しており24時間対応できる体制が整っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を実施し、その後反省会にて振り返りを行い改善に努めている。地域の防災訓練にも参加していたが、コロナウイルス感染症のため開催されていない。	年2回、日中、夜間の火災や地震、水害を想定した避難訓練や水消火器を使つての消火訓練、消防署への通報訓練を実施している。非常ベルで法人事務所にも伝わり対応が取られる。コロナ禍前は地域の防災訓練にも参加していた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重し、プライバシーについても充分配慮するよう努めている。	接遇や虐待防止に関する研修を実施したり、職員へのアンケートを行い、自分自身の支援や他職員の支援についての振り返りを行っている。利用者を理解し一人ひとりに合った声かけ、対応を行うよう心がけ、同性介助の希望にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや本音を引き出せるようコミュニケーションを多くとり、声掛けに工夫しながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活を大切にし、急がせたり焦らせるような声掛けをすることのないよう努めている。本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際にご本人に着たい服を選んで頂いたり、愛用している化粧品を使い、カットや毛染め等希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や、後片付け等それぞれの能力に応じ、職員と一緒にやっている。季節の食材が取り入れられている。	配食業者から届く食材を調理し提供している。時には品数を増やしたり、食材を替えて別メニューにしたり、行事食を取り入れたりしている。また、梅干し作りや梅ジュース、笹団子、ホットケーキなどおやつ作りやコロナ禍前は外食や弁当を持っての外出など食事を楽しむ工夫を行っていた。可能な利用者には米とぎや盛り付け、テーブル拭き、食器拭きなど手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの毎月の摂取量を記録に残したり、月初めに体重測定を行い、変化を確認している。併設施設の管理栄養士に栄養について相談したり指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方の能力に応じて声掛け、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレを使用して頂けるよう促している。不快なおもいをしないよう配慮し支援している。	トイレでの排泄ができるよう支援し、現在、ほとんどの利用者がトイレで排泄できている。便秘がちな利用者については排泄チェックを行い、水分を多めに摂ってもらったり、体操など体を動かす機会を持つなど工夫したり、主治医と相談し下剤を使用するなど気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外にも午前と午後にお茶の時間を設けている。体操し体を動かす機会を持つようにしている。個別に水分を多めに摂取して頂いたり、便秘予防ができる工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本として対応している。入居者様の気分や体調により入浴日を変更することもある。	週3回の入浴を基本としているが、疲れやすいなど個々の状況に応じて家族と相談し週2回としている利用者もいる。入浴の曜日は決めているが、その時の気分や体調に応じて翌日に変更するなど柔軟に対応している。入浴剤を使用し、浴室に絵や写真を貼ったり、職員とマンツーマンの時間を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりのペースで休んで頂いている。使い慣れた枕や布団を持参して頂いている。寝付けない方がいる時は原因を探ったり、会話をしたり安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの処方箋がすぐに確認できるよう管理されている。薬の変更時は業務日誌を活用し状態を確認変化を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった役割や得意分野、趣味等を続けて楽しんで頂けるよう支援している。毎月の行事や誕生日会には全員でお祝いしたり、外出することで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や面会、買い物等希望に添えるよう支援している。ドライブや散歩したりしている。	コロナ禍では控えてもらっていた家族との外出を今年度から再開し、出かける機会が増えている。日ごろから事業所周辺の散歩やごみ捨て、買い物など外へ出る機会を作るようにし、また花見やぶどう狩りなど年間行事として外出計画を立てている。個人的な買い物や外出希望にも職員が付き添いできるだけ対応するよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望の物が購入できるよう支援している。購入の際は職員と買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話使用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは温度、湿度計を設置し心地よく生活できるよう配慮している。季節にあった作品を飾ったり、行事の時の写真を掲示しそれを見ながら入居者様同士が談笑されたりと、家庭的で落ち着いた雰囲気を感じて頂くよう工夫している。	共用空間は利用者と、職員が協力して毎日、清掃、消毒し清潔に保たれている。また加湿器を置くなど温度、湿度にも配慮されている。壁面には行事の際の写真や利用者と職員で作った貼り絵など季節の作品が飾られ居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にソファがあり、他者と一緒に過ごしたり、自室にて一人でゆっくりと過ごしたり、仲の良い方と部屋で話したり、行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や置物、写真をお持ち頂いている。好みの物をいかに心地よく過ごせるようにしている。	居室にはエアコン、洗面台、ベッド、タンス、クローゼット、カーテンが備え付けられているが、そのほか使い慣れた物を持ってきてもらうよう本人、家族に伝え、テレビやタンス、座椅子、写真など様々なものが持ち込まれている。居室は職員が清掃、消毒し、エアコンの温度設定等は事務所で管理できるため、適切に温度管理ができています。数人の利用者が一部屋に集まり歓談するなど、その人らしい居心地よい居室作りが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にネームプレートを用いて馴染みやすい雰囲気づくりをしている。浴室やトイレがわかりやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				